

令和8年度第1回白井市市民活動推進委員会

- 1 開催日時 令和8年5月13日（水）午後1時30分～4時30分
- 2 開催場所 白井市役所東庁舎3階 会議室303・304
- 3 出席者 関口宏聡委員、出川真也委員、赤間賢二委員、大田茂子委員、
富澤賢司委員、木下新治委員、篠原美保委員（名簿順）
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 今井市民環境経済部長、元田市民活動支援課長、安岡課長補佐、
栗原主任保健師、伊東主事
- 6 傍聴者 3名
- 7 議 事
 - (1) 令和8年度市民団体活動支援補助金の審査について
 - (2) プレゼンテーション
 - (3) 審査

8 会議概要

○事務局

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和8年度第1回白井市市民活動推進委員会を開催いたします。皆様におかれましては、御多忙の中、御出席くださいますとありがとうございます。

開会に当たり、委員長から一言御挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○委員長

皆さん、こんにちは。本日も委員会に御参加いただきましてありがとうございます。

今回は、補助金の審査ということで、この7名で審査を進めていければと思います。私も事前に拝見していて、非常に、そもそも申請があったということも喜ばしいことだと思いますし、促進型には3団体、新しい団体さんが申請されているということで、白井の市民活動の活発さを実感しているところですが、同じ市民として、皆さん温かく審査していただければと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局

委員長、ありがとうございました。なお、事務局に関しましては、年度が変わり、一部メンバーが変わりましたので、御挨拶させていただきたいと思っております。

まず初めに、市民環境経済部長の今井です。

○事務局

市民環境経済部長の今井でございます。3年目になります。委員の皆様よろしくお願いいたします。

○事務局

続きまして、市民活動支援課長の元田です。

○事務局

元田です。引き続きよろしくお願いします。

○事務局

続きまして、市民活動支援課の課長補佐の安岡でございます。

○事務局

4月から市民活動支援課に参りました安岡と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局

続きまして、市民活動支援課の栗原です。

○事務局

栗原です。引き続きよろしくお願いいたします。

○事務局

最後に私、昨年度も市民活動推進委員会の担当させていただいておりました市民活動支援課の伊東と申します。今年度も担当させていただくこととなりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日の出席委員の報告をさせていただきます。出席委員は7名中7名で、全員出席となりましたので、白井市附属機関条例第6条第2項の規定により会議は成立することを報告します。

また、白井市審議会等の会議の公開に関する指針により、議事2については公開、議事1と3については非公開といたします。

なお、会議の間は、後日、会議録を作成し公開するために、会議中の発言を録音いたしますので、あらかじめ御了承願います。また、御発言の際は、必ず挙手をし、マイクを御利用くださいますようお願い申し上げます。

それでは、次第2、議事に移ります。ここからの進行につきましては、委員長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【議事】

(1) 令和8年度市民団体活動支援補助金の審査について

○委員長

それでは、進めさせていただきます。

本日は、先ほど申し上げたとおり、補助金の審査ということになっております。審査に当たりまして、まず補助金の審査について、皆さん昨年度もやっておりますが、一応確認ということで、事務局から内容の御説明をお願いいたします。

○事務局

それでは、事務局から、議事について説明させていただきます。

まず、議題の（１）令和８年度市民団体活動支援補助金の審査について、事務局から説明させていただきます。

この議題では、本日の委員会の流れや審査の方法、事前に皆様に御協力いただいた団体への質問事項についてお話しさせていただければと思います。

始めに、資料１を御覧ください。本日のスケジュールです。本日の委員会の流れは表のとおりとなっておりますが、午後２時まで、議題１においては審査についての説明をさせていただきます。説明終了後、応募団体によるプレゼンテーションと質疑応答の時間に移らせていただきます。

今年度に関しましては、応募団体が４団体でございますので、表のとおり、白井写真部から順番に発表を聞いていただくこととなります。

団体によるプレゼンテーション・質疑応答について、最後の団体まで終了いたしましたら、皆様に補助金の審査をしていただくこととなります。審査では、まず団体のプレゼンテーションと質疑を受けて、委員の皆様で評価すべき点や気になる点など、皆様が感じたことを共有する時間を２０分ほど設けたいと思っております。意見の共有ができましたら、委員の皆様各個人で採点となり、お配りしている資料４、審査用紙に団体ごとの得点を記入していただきます。審査用紙は、記入が終わり次第、事務局が回収し集計しますので、その間、皆様は１０分間の休憩となります。

集計が終了しましたら、最終審査として、採択候補団体の決定と団体への審査コメントの確認をしていただきます。

本日の流れとしては、以上となります。

続いて、資料２、令和８年度白井市市民団体活動支援補助金の審査についてを御覧ください。

１、応募申請事業一覧については、今年度の補助金に応募した団体名、申請事業名、補助申請額を記載しております。今年度については、活動促進型に３団体、活動発展型に１団体が応募しております。

続いて、２、補助対象となる事業についてです。こちらは前提として、この四角の中で書いてあるとおり、市内で行われる公益活動で、令和８年４月１日から令和９年３月３１日の間に実施される事業が補助の対象となります。

ここでいう公益活動とは、不特定かつ多数の市民の利益の増進に寄与することを目的として、自主的かつ自発的に行う非営利活動のことを指しておりますので、当てはまらない事業は補助の対象外となります。

また、二つ目の米印に記載のとおり、国や県、地方公共団体、またはそれらに準ずる団体から補助金等の財政的な支援を受けている、または受ける予定の事業、ま

た、自己の教養や趣味を深めることを主な目的とする事業、構成員相互の利益を目的としている事業、親睦のみを目的とする事業についても対象外になります。

皆様には、以上を踏まえて、今回申請された事業が補助の対象となるかどうかについても判断をお願いいたします。

続いて、3、プレゼンテーションを御覧ください。この説明が終わった後、議事2において、団体によるプレゼンテーションと質疑応答の時間を設けます。プレゼンテーションの発表の順番は表のとおりで、2時から白井写真部、2時25分からおもしろいタウン、2時50分から桜台剣友会、3時15分から白井市文化センターを未来につなぐ会が順番に発表をいたします。

1団体当たりのプレゼンテーションの内容についてですが、1団体当たりプレゼンテーションが10分以内、質疑応答も10分以内といたします。およそ入替えの時間を含めて、1団体当たり25分程度の時間となります。

2ページ目を御覧ください。1団体の25分の時間の内訳と流れについて、表に記載しております。時間になりましたら、事務局が1番目の団体を会場に呼び、入室していただきます。発表前に、まず発表団体の紹介とプレゼンテーションの説明を事務局がいたします。それが終わりましたら、事務局が開始の合図をし、団体が発表する時間となります。この際、経過時間については、適宜、職員がお知らせをし、時間が超過した場合は、プレゼンについては、そこで打ち切りとなります。

質疑応答の際は、進行を委員長をお願いいたしますので、進行に従って進んでいただきますよう、お願いいたします。

質疑応答までが終わりましたら、団体には退出いただき、次の団体に入れ替えて同様に進めていきます。

続いて、4、審査についてです。

最後の団体まで発表が終了しましたら、議事3において審査を行います。

始めに、委員の皆様でプレゼンと質疑応答を聞いた結果の意見共有をし、その後、各自で審査用紙への得点記入をしていただきます。採点が終わった委員さんから、各自休憩となりますが、その間、事務局で得点の集計をさせていただくため、審査用紙の提出をお願いいたします。

休憩後、議事を再開し、事務局から各団体の得点結果を報告させていただきます。その結果を踏まえて、採択候補団体の決定をお願いいたします。

なお、審査の際に、皆様をお願いしたいことがございます。(2) 審査基準・採点区分を御確認ください。

この表に、審査項目と審査ポイント、採点区分について記載しております。採点する際には、こちらの表を確認いただいて、それを踏まえて、各団体が審査の基準を満たしているかどうかについて判断していただいて、その上で得点をつけていた

だくようお願いいたします。採否を決定するものになりますので、厳正な審査に御協力いただくようお願いいたします。

3 ページに移りまして、採択候補の選定方法についてです。皆様に書いていただいた結果を集計し、平均点数が採択基準点、ここでいう活動促進型は15点、活動発展型は24点以上を得点した団体について、得点の高い団体から順番に採択の候補とさせていただきます。

なお、審査の結果によっては、条件をつけての採択や、申請額よりも減額しての採択とします。

以上が審査についての説明となります。

最後に、資料3、質問事項を御覧ください。こちらは、皆様に事前に団体からの申請書類を見ていただいて、気になる点などを書き出して、事務局に送っていただいたものを取りまとめたものになります。これについては、審査や質疑の場で各自、御活用いただければと思います。なお、団体には、事務局から事前に質問事項については送っております。

以上が事務局からの説明となります。

○委員長

ありがとうございました。今の内容につきまして御質問ありますか。

●●委員。

○●●委員

念のための確認ですが、資料2の1ページ目の補助対象となる事業として、「以下に該当する事業は対象外となります」において、国や県、地方公共団体、また、それに準ずる団体から補助金等の財政的な支援を受けている、また、受ける予定の事業は対象外になるということとなっています。本事業は、割と自己資金、自己負担が生じてしまう事業なので、他からの助成金や補助金を受けるケースというのはいり得ることで、それで不足分を補うという認識があったかと思うのですが、これはどんな扱いになっていましたでしょうか。

今回だと、コープみらいの地域クラブ助成金というのが入っているものがあったりしますが、特段、これは考えなくてよいですか。

○事務局

補助金の原則があるのですが、この補助金は税金を原資としているもので、税金を原資とした補助金を受けている状態で、さらに別の税金を原資とした補助金を受けるというのは、基本的に二重補助となってしまって、それは補助金の原則からして、駄目だということになっています。その点では、生協とかそういった補助金を併用していただくのは、税金を原資としたものではないので、そこは差し支えないということで考えていただければと思います。

○●●委員

分かりました。関連して質問になりますが、例えばスポーツ関係の団体とか、教育活動団体でも、例えば市とか自治体から、別途補助が出ているところは一応気をつけなきゃいけないという、そんな意味合いになりますか。

○事務局

そうですね。そこには気をつけていただければと思っております。

○●●委員

分かりました。以上です。

○委員長

ありがとうございます。

念のための補足ですが、同一事業に対して行政から補助が出ていたら駄目ですが、団体に対して補助が出ている場合は、その申請事業が別で区分されていれば、一応二重補助にはならずセーフという整理だったと思いますが、それでよろしいですかね。

○事務局

その認識で間違いないです。

○委員長

そういうことでよろしくお願いします。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですかね。

先ほど冒頭、事務局と調整しましたが、団体さんには20分前集合ということでお知らせしているそうです。あと、プレゼンと質疑応答が、それぞれ10分以内という条件で開催するという事になっていますので、開けてみないと分かりませんが、もしかすると早く終わってしまう可能性があります。その場合は、審査の時間が30分ほどしかなくて、結構ぎりぎりの可能性もあるので、前倒しでやっというふうなふうに思っております。もちろん団体さんの同意があればということが前提ですが、早く終われば、その分、前倒しで進めていきたいと思っております。

ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

早速なのですけれども、前倒しし、プレゼンテーションに移っていきたく思います。

(2) プレゼンテーション

○事務局

それでは、団体さんがおそろいになりましたので、時間は早いですが、早速、プレゼンテーションに移らせていただければと思っております。

1番目は、白井写真部さんの「未来の記憶写真館」についてです。発表者は、●●さん、●●さん、●●さんの3名になります。

まず始めに、注意事項について説明させていただければと思っております。

1団体につき、発表は10分以内、質疑応答についても10分以内といたします。発表形式は自由になります。発表及び質疑応答の間は、随時、経過時間をお知らせいたします。5分経過しましたら、紙を上げます。7分30秒経過しましたら、ベルを1回鳴らします。9分経過しましたら、紙をまた上げます。10分経過しましたら、ベルを2回鳴らします。審査を公平に行うため、時間を超過した場合については、途中で終了させていただきます。

質疑応答については、市民活動推進委員会の進行の下、委員から申請書類や発表内容について質問いたしますので、簡単にお答えください。質疑が10分を超えた場合については、その時点での質疑を最後の質疑とさせていただきます。

以上が注意事項になります。何か御質問等はございませんか。

それでは、発表をお願いいたします。

○白井写真部

皆様、こんにちは。白井写真部の●●、●●、●●です。よろしくお願いいたします。本日は、私たちが今年のふるさとまつりで実施する「未来の記憶写真館」について御説明いたします。

この取組は、白井市が2024年から2025年に実施した白井市フォトプロジェクト「未来の記憶写真館」を市民団体である私たち白井写真部が引き継ぎ、市民で継続していく新しい挑戦です。

まず、事業の背景について、お話しします。

白井市は、都心のベッドタウンとして発展してきましたが、多くの住民が市外で日中を過ごすため、地域コミュニティとの接点が薄れやすい構造的な課題があります。実際に私たちのメンバーからも、長く住んでいるが、地域の魅力や人とのつながりを実感する機会が少ないという声が多く聞かれました。

こうした中、白井市が主導した「未来の記憶写真館」は、延べ400組以上の市民と交流し、白井の魅力を再発見する大きな成果を上げました。

その中で、撮影に御協力いただいた方々からは、「また来年も写真を撮ってもらいに来ます。」「昨年、家族が増え、撮ってもらった写真をリビングに飾っています。今年もまた撮影で来ました。」といった温かい声を頂きました。こうした市民の継続的な参加意欲こそが、この事業を続けていくべき理由を示しています。

しかし、この行政プロジェクトは、2025年度で終了しています。そこで私たちは、この貴重な市民同士のつながりを絶やさないために、市民主体で継続することを決意しました。

本事業では、次の三つの効果を目指しています。

1、シビックプライドの醸成と定住促進として、毎年、同じ場所で家族や仲間と撮影を続けることで、市民一人一人の人生の歩みが白井市の風景に刻まれていきま

す。これは、この町で生きていくという実感につながり、定住意欲や市民活動への参加意欲を高めます。

2、地域資源の可視化と発出として、市民の視点で何気ない白井の魅力を切り取り、SNSで発信することで、観光資源とは異なる等身大の白井を広く伝えることができます。

3、多世代、多文化が交差するコミュニティの形成として、写真という共通言語を通じて、高齢者から子育て世代までが自然に交流する場をつくります。

今年の「未来の記憶写真館」は、第45回白井ふるさとまつりの2日間で実施します。場所は、白井総合公園内の特設ブース。昨年までと同じエリアを想定。対象は、来場者全て、家族、友人、個人、市民団体、ボランティアスタッフなど。内容、本格的な機材を使った高品質なポートレート撮影。その場でデジタルデータをお渡しします。メッセージボードを使った撮影。白井の好きどころ、将来の夢などを掲げ、個人の思い出であると同時に、まちの記録として残します。目標、2日間で200から250組の撮影を目指します。

今年度は、機材を購入せず、レンタルで実施します。その理由は三つあります。

1、撮影品質の担保。屋外の光環境は、変化が激しく、市主導時と同等のクオリティを維持するためには、フルサイズ一眼レフや安定したデータ転送システムが不可欠です。

2、運用体制の検証。今年は、市民団体として初めての独立運営です。まずは、実績のある機材構成で、安全かつ円滑に運営できるか検証する必要があります。

3、持続可能な運営の構築。今年の結果を踏まえて、来年度以降に必要なスペックを精査し、補助金に依存しない運営を目指します。

実施体制とスケジュールについてです。白井写真部の約15名が設営、撮影、受付、データ引き渡しを担当します。

準備は、6月に活動概要の決定、7月に事前機材配置の検討、8月に物品購入とレンタル手配、9月から10月にシミュレーション、前日搬入、本番、11月に反省会と次年度検討という流れで進めていきます。

補助事業が1年で終わった後も、私たちは、この活動を継続していきます。会員に過度な負担をかけない仕組みづくりを進め、より無理なく、より質の高い形でブラッシュアップし、長く続けられる市民活動として育てていきます。

「未来の記憶写真館」は、単なる写真撮影ではありません。白井市に住む人々の人生の一瞬をこの町の風景とともに記録し、未来へつなぐ取組です。市民が市民を撮り、市民が町を好きになる。この活動を継続し、そんな循環を私たちはつくっていきます。

御清聴ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございました。時間はまだありますが、よろしいでしょうか。

そうしましたら、この後、委員から何個か御質問させていただきますので、お答えいただければと思います。

それでは、委員の方いかがでしょうか。

どうぞ、●●委員。

○●●委員

ありがとうございました。すごく素晴らしい活動だなと思います。ふるさとまつりの会場で写真に写ってもらって、その場でデータをお渡しできるのですかね。そのデータを渡すときは、どうやってお渡しするのでしょうか。スマホに送るようなイメージでしょうか。

○白井写真部

ありがとうございます。昨年度までは、その場で携帯のWi-Fiとパソコンとカメラとポータブル電源というような構成で行っていましたが、カメラからそのまま、パソコンにWi-Fiでデータ転送をしまして、スマートフォンのアプリ、iPhoneの方は、パソコンからそのままAirDropでデータを転送しました。Androidの方に関しましては、GigaFile便というデータ転送サービスを使いまして、ここにアップロードしたものをQRコードを読み込んでダウンロードしていただくという形式でデータを渡しました。

○●●委員

ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員

よろしくをお願いします。

質問1は、私が質問したのですが、丁寧に答えていただきありがとうございます。

イベントでの開催ということですが、私が考えましたのは、非常にふさわしい事業なので、一過性ではなくて、やはり日常化できると、こういった取組は非常にいいと思うのですね。本日お見受けして分かったのですが、もっと御高齢の方が中心に構成されている団体なのかなと先入観を持っていたのですが、そうではないので、ウェブサイト系のことを利用していくことによって、世代間の交流を考えたときに、なかなか物理的なところでは、イベントでは会えるかもしれないけれども、日常的にはなかなか接点を持ちづらいということがあると思います。ですので、せっかく行なった取組を有効活用するうえでも、データ上は蓄積できるものかと思

ますので、何とかバーチャル空間でも活用して、日常的に接するような、接して相互に何らかの交流ができるような仕組みになっているといいなという発想です。技術的なところは、私もよく分かっていないのですけれども、ぜひ、その辺を研究していただくことで今後の展望も見えるかと思えますし、今回、採択後も来年度、再来年度、後続の助成メニューもありますから、活用いただきながら、そういった全世代層、特に若手世代層も、こういう時代ですから、スマホで見ているわけで、そういったところでアクセスが日常的にすることによって、いわゆるオフ会的なところにも誘引しやすくなるのではないかと、そんな実感と経験もあるので、研究を進めてもらえたら良いのではないかというふうに、そんな趣旨で質問させていただいておりました。感想でございます。ぜひ頑張ってください。よろしくお願ひします。

○委員長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

どうぞ、●●委員。

○●●委員

とてもいい取組だと思います。画像修正ソフトを使わないのですか、と質問したのは私でございます。でも、これを見ていて、記録的なものだったら修正しちゃいけないよねというのが今回すごくよく分かりました。

市が主導だったときに、私はセンターにいますが、センターフェスティバルで、こういう写真を出していただけませんかというのを2回ほど断念したことございます。いろいろなことを気をつけなきゃいけないので、それは無理ですみたいな形になったのですが、今後、御自身たちでやられるに当たり、そういうフェスティバルとかにも、どんどん参加していきたいなという思いはございますか。

○白井写真部

御提案ありがとうございます。昨年までは、白井市の秘書課が主体として運営してきた部ではございまして、今後につきましては、まだ検討中という、活動を含めて全体的にですね。どういったものならできるかというのを精査していかなければいけないですし、それぞれ条件によって、できること、できないことというのを考えていかなければいけないので現状ではないです。今年度となってしまうと、今まで進めてきた内容を進めて、市民の皆さんに、もう少し認知度を上げるという活動をメインに考えていきたいと思っていますので、今後の活動の中では、そういった御提案いただければ、状況によっては、活動として取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございます。

○白井写真部

追加でよろしいですか。南山小学校区のまちづくり協議会のほうからは、知り合いの方がいらっしゃるのですが、今年の秋口に白井の駅前で、今年の白井の写真の

展示を行いたいという企画を今、考えていらっしゃる方がおります。この方から、今の白井の写真を写真部さんで撮ってくれないかなという言葉を受けています。

写真部では、月に1回ほど、白井の駅前などを有志のみなで集まって、風景とか人とか、そういう姿を撮るといふ活動を今、細々と続けていますが、そういうメンバーがたくさん集まれば、ふるさとまつりだけじゃなくて、ほかのところでも、写真撮ってもらえませんかという依頼があったら、行くということは可能かなと思っております。

○委員長

ありがとうございます。

●●委員。

○●●委員

皆さん、ありがとうございます。私も初めて見せていただいたのですが、素晴らしいなと思っております。

データは、毎年撮っていくと、相当データが集まるのではないかと思います。せっかく撮ったデータをどこかで発表とか、そういう場所というのをつくる予定というのはあるのですか。

○白井写真部

肖像権の関係などで、とにかく個人情報厳しくて、今のところ、まだそこまで考えていないのですが、ゆくゆく皆さんから、活用してもいいですよという了承されたものを活用していきたいなということは個人的には考えています。

○●●委員

それから、ふるさとまつりでも、結局はブースとかで、いろいろな形の毎年変わったりしている、いろいろな形で変わっていくと思いますが、その変化しているものなども写真を撮って、保管しておくのもいいなと思えました。ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

●●委員。

○●●委員

発表ありがとうございました。感想に近い形になってしましますが、毎年ここに訪れたいと思う、とてもよい活動だなと思えました。

質問11は、私から出させていただいたものですが、今回、私はこの活動自体をこのきっかけで知って、もっと広く知れ渡ったらいいなという思いから、どういふふうで発信計画がありますかというのを書かせていただきました。回答のほうは読ませていただいておりますが、先ほどもあったとおり、撮影した際に、SNS公開はオーケーですかみたいなのが、その場で確認できれば、SNSでも、単発ではなく

て継続的に発信していくようなことで、目が留まる機会が増えていくと思いますので、ぜひぜひ今後も長く広く続けていっていただきたいと思います。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございます。

●●委員、どうぞ。

○●●委員

2点ほど質問させていただきます。1点目は、活動中に、ビブスとか腕章とかをつけて分かるようにするのか。つまり、まつりに来ている方に、写真部と分かるようにしていただけるのかどうかということと、2点目に、レンタル代の見積書が出ているかと思うのですが、こちらのレンタル先の会社というのは、特に団体さんの関係者ではないと考えてよろしいですか。普通のレンタル会社ということではよろしいでしょうか。2点、教えていただけますか。

○白井写真部

腕章は、つける予定でおります。腕章かネームプレートか分からないのですが、会場で、ちゃんと白井写真部ですというのが分かるようにする予定であります。

2点目は、一般のレンタル会社で、特に部員と何か関係があるというところはありません。

○委員長

ありがとうございました。

それでは、時間となりましたので、これにて白井写真部さんの発表は以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○白井写真部

ありがとうございました。

○事務局

それでは、2番目の団体として、おもしろいタウンの●●さんと●●さんから発表させていただきます。

それでは、発表をお願いいたします。

○おもしろいタウン

本日は、貴重なお時間を頂き、ありがとうございます。おもしろいタウン実行委員会の●●と申します。

○おもしろいタウン

●●です。よろしくお願いいたします。

○おもしろいタウン

この活動は、しろい市民まちづくりサポートセンターの講座「子どもも大人も生き生きするまちづくり」といって、この講座の参加をきっかけに生まれました。

私たちは、白井の子供たちが主体的に考え、つくり、動く、そんな体験ができる「こどものまち おもしろいタウン」を運営しています。

こういったリーフレットの紹介、団体紹介では、お見せしたかもしれません。御覧になっているかもしれません。仕事、通貨、ルールまで、子供たちが話し合っただけで決めます。そして、当日は、話し合っただけで決めたルールで、子供スタッフが市役所を運営、お店の店長などを担当して、当日、参加する子供たちは市民として、ここで働いたり、買い物をしたり。大人は、口出し禁止で見守りに徹します。

事業の背景として、今の子供たちは、テレビやインターネットなど、違う学年、違う学校の子供同士の交流が少ない。子供たちが主体的に考え、決め、行動する体験が少ない。社会の仕組みを学ぶ機会が限られている。これらを白井市につくりたいという思いから、私たちは2020年に活動を始めました。

事業の目的です。この活動を通して、子供たちは次のような力を身につけられると考えます。自己決定力、責任感、自分で考え選ぶ力と、役割を最後までやり遂げる力、異学年との交流でコミュニケーション力が向上する。はじめましての違う学年の子同士、違う学校の子供同士が話し合いを持つ場。自己肯定感、表現力、達成感を育てる。自分のお店アイデアが形になるという経験ができます。そして、働く。行政の仕組みを体験的に学ぶことができると考えています。

おもしろいタウン、子供たちの年間のスケジュールです。6月には、全小学校に子供スタッフ募集のチラシを配布します。対象は小学3年生から6年生までです。子供スタッフ会議は、月1回で、2度のリハーサルを含めた合計5回の会議で準備をしていきます。

10月には、当日の参加募集のチラシを配布します。当日の参加者は、小学校全学年が対象です。今年の本番は、11月29日、南山小学校を予定しています。12月には、まとめの会を行い、次年度の改善へつなげます。

写真は昨年の様子です。参加者が市民登録をして、専用通貨をもらい、買い物やゲームを楽しみます。通貨がなくなったら、お仕事センターで仕事を探し、お店や機関で働いて通貨を得ます。

右半分が子供たちが考えた店ですね。店名も全部、子供たちが自分で決めています。何屋さんかと思えますよね。そのキャッチーが魅力で、意外と人気があったりするのです。

そして、こちらが、まちの仕組みですね。これは印刷した専用通貨ですね。それを働いたり、最初に専用通貨もらえますので、もらってから遊びに行ったり、ゲームをしたりします。

そして、ここに少し見えづらいのですが、首からカードを下げた子供がいるのですけれども、これは市民です。当日、参加して市民で、最初にもらったお金を使い切った。じゃあ、どうしよう。お仕事センターで仕事を探しに行き、また働きに行って、時間分、通貨をもらう、そういうことをします。

中学生が、大山口中のボランティア部、あと白井高校のボランティア部の子たちが当日、手伝いに来てくれています。あと、中学生なのですが、元子供スタッフ、そして中学生になった子が当日だけ手伝いに来てくれるのですね。そういった青少年になっても、つながりが生まれつつあります。

活動実績です。子供スタッフの数は年々増えています。去年は、46名の子供スタッフのうち、約3分の1がリピーター、前回の参加者でした。認知度は徐々に増えており、当日参加者は、毎回150名以上が参加する企画になっています。

実施スタッフ体制です。大人スタッフ7名で運営していますが、当日は、子供スタッフの保護者など、大人50名近くが協力をしてくれます。大山口中、白井高校のボランティア部へもお手伝いをお願いしています。

補助金の必要性についてです。こどものまちは、子供のアイデアを形にするため、材料費、または、印刷や原料などの経費は、参加費だけでは運営が難しく、特に子供スタッフが考えたお店づくりの材料費、これが大きな負担となっています。補助金を頂くことで、参加費を値上げせずに、子供たちのやりたいを実現できる、そんな環境を整えることができます。

補助終了後の展望です。私たちは、この活動を一過性のイベントではなく、白井市の子供たちの学びの場として継続していきたいと考えています。将来的には、市内全小学校での順番開催、そして教育委員会との共催により、市役所開催を目指しています。

まとめです。こどものまちは、白井の未来をつくる事業です。子供が主体的に学び、成長する場を提供し、地域とつながる機会をつくれます。白井の子供たちのために、ぜひ御支援を賜れば幸いです。

発表は以上となります。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございました。それでは、残りの10分以内で質問をさせていただきます。委員の方、いかがでしょうか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員

どうも発表お疲れさまです。

私は社会教育士でもあるので、このような質問をしたいなと思っています。非常に興味深い教育事業だなと思うのですが、将来的に、継続的に学校教育とか社会教育とか、そういったところに位置づいて、教育委員会関係に位置づいて、継続的に

やっていきたいという将来展望ということだったかなというふうに受け止めました。

であれば、質問でも僕は書かせていただきましたが、当初から、教育委員会、学校の指導主事とか社会教育主事の先生との連携は、きちんとつくっておくということが非常に有効かなと思います。その辺の実施体制の教育委員会との関係者との連携、実施体制というのは、どんな形になっていますでしょうか。

○おもしろいタウン

毎年、教育委員会、市からの後援という形で後援をしていただいています。それで私たちの活動実績は報告させていただいているのですが、まだ3回しかやっていなくて、まだ実績が少ないので、教育委員会に、共催とかそういうのをお願いするほどの実績がないかなと思っています。また、教育委員会の方にどんなふうをお願いしに行けばいいのかというのが、私たちスタッフの実力不足で、そういうのは今、まだ行われていない状態です。

○●●委員

分かりました。ぜひ初動の段階から、実施体制の中に、教育委員会の指導主事の先生とか社会教育主事の先生に入ってもらいたいのがよろしいのではないかと思います。この事業は、学校教育と地域教育と両方ともにまたがっているの、ちゃんとしたそういった行政の役職の方がいるので、つながる必要があるのではないかと思います。その辺、事務局でも、もし採択された暁には、相談しながら進めていただくことによって、その後の将来展望のところで教育委員会の主流の教育予算の中にきちんと位置づくとか、そういった将来の展開性も十分考えられる可能性のある事業提案ではないかと思っていますので、ぜひ検討いただければいいのではないかと思います。

以上です。

○委員長

ありがとうございます。フォローをさせていただくと、もう小学校で開催できている時点で、大分連携はできていると思います。

私、実は千葉県佐倉市出身なので、子どものまち「ミニさくら」、日本の発祥の地なので誇らしいのです。「ミニさくら」は中志津の商店街でやっていますから、学校で開催、ほかの全国的な事例として、小学校開催というのは逆にユニークなのかもしれないし、別に学校でやらなくてはいけないものではなくて、そもそもの元祖は商店街でやるのですよ。だから別に白井駅前のおそこのロータリーとかでやってもいいし、安全管理の問題があるから、小学校とかを選択されていると思いますが、むしろ学校を飛び出してもいいぐらいだと思います。

皆さん、ほかはいかがですか。

●●委員。

○●●委員

私も、市の後援規程とか、よくそこら辺は確認して連携したほうがいいかとは思いますが、私の質問としては、白井市には端っこまで行くと桜台小学校がありますが、今、まだ3回実施した状況ということで、南山小学校とか、その前も、その近くでやられていたと思うのですが、どういうふうに広げていくのかというのが気になりました。あと、昨年度の実績を見ると、ガラス破損による支出がかなり大きかったのかなと思うのですが、その再発防止とか含めて、教えていただけますでしょうか。

○おもしろいタウン

事前のリハーサルで子供たちが何をやるかを把握していますが、今回、起きてしまったのは、事前のリハーサルにお休みしていて把握ができていなかった子だったのです。当日の朝のリハーサルのとき、スタッフがバタバタしているときでしたが、硬いボールを投げてしまって、またその硬いボールを使用しているということをスタッフも把握していなかったというのが、そこを子供たちにちゃんと、室内だからそういうものやっちはいけないという、そういう説明も足りなかったなということがあります。

なので、今年度、3回の実践を経て、そういう私たちの足りない部分を全部資料として引き継いでやっていっているのですが、今年度は、安全意識をもっと高めたいなと思います。

○委員長

あともう一点、市内全域へという質問についてもお願いします。

○おもしろいタウン

市内全域は、自分たちが住んでいるというか、身近なところでまずはやっていったのですけれども、今年は南山小学校で、2年続けてなので、次回、教育委員会との連携が取れていなかったのも、自分たちの自主事業みたいな感じで、自分たちで教頭先生や校長先生に連絡を取って、私たちはこういう事業をしているので、体育館を使わせてくださいというお願いをしに行っているのですね。それが教育委員会とかもっと連携取れば、学校側で、この日はこの体育館を使っていいよというような感じになれば、市内全域での開催が可能なのではないかと思います。

○委員長

ありがとうございます。ほかにいかがですか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員

子供が楽しめる素晴らしい事業だなと思います。ただ、収支予算書を見ると、参加費として500円かかっているというところで、これが高いのか安いのかというのは置いておいて、子供が気軽に参加できるように、本来だったら無料ですよと言

ってあげたいところなのですが、今後、この500円というのは、必要経費として、どうしても計上せざるを得ないのか、何らかのこういった助成金なり、何か活用している中で、この参加費というのをもっと安くするという、そういうお考えはございますか。

○おもしろいタウン

本当に教育委員会というか、市の事業として、市から予算があるようなものであれば、参加費無料みたいなことはできると思いますが、私たちやっているこどものまちにしても、皆さん参加費を頂いて行っているのです、その参加費を無料にするのは、今は難しいです。

○●●委員

ありがとうございます。

○委員長

ほかにいかがですか。

●●委員。

○●●委員

大変素晴らしい取り組みだと思います。私は、小学校区まちづくり協議会という一つの代表でもありますが、様々な市の団体がありますので、その辺を利用したりしてもいいのかなと思っています。

私が担当しているのは第三小学校ですが、そこでは、学生や子供たち、学校とのつながりを結構持っていますので、ぜひ、この活動をうちの学校でもやってほしいなと思っていますし、子供たちの自主性が保てるのかなと思っていますので、素晴らしいなと思います。

それから、実行委員会をつくってから発表するまでの時間が長いように感じるのですが、子供たちはそこまで気持ちを維持して、最後まで活動してくれているのかなと思いました。

○おもしろいタウン

昨年度の活動実績を見ていただければ分かるのですが、必ず5回のうち、全部に参加しなくてはいけないというふうにはしていないのですね。その分、自宅で用意できるものはしてきてねということと、あと今メールなどでやり取りしているので、親御さんの通じてにはなりますが、今日はこんなことしたから、次までにこれをやってきてねというような感じで、割と参加も自由な感じにしているので、皆さん、継続して当日を迎えています。

○●●委員

ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。ほか、いかがですか。

●●委員。

○●●委員

子供に対して、とてもいい事業だなとは思いますが、運営に関しては、昔、白井コミセンがやっていたワーキングキッズアドベンチャーにすごい似ていて、運営自体は分からなくはないのですが、社会の仕組みを知るところで、今回、消防署ブースとかとコラボして、とてもよかったという御意見があつて、ゆくゆくは警察とか、病院とか、図書館などあればいいなというコメントとかも出ていますが、今後、そういったところとコラボしていくイメージなのでしょうか。

子供たちのブースは、社会の仕組みというよりも、何となく自分たちが楽しいブースづくりに見えるので、それを社会として学ぶために、先ほど出川委員がおっしゃったような社会教育士の方の助言があると、もう少し、遊び感覚だけではなくて、社会がどんな仕組みで回っているとか、少し堅いかなと思いますが、今後警察とか、そういうところとコラボしていこうとか思っていらっしゃるのでしょうか。そうなったら、職業体験になってしまうのかなとも思うのですが、その後、どうしていこうかというのをお聞かせください。

○おもしろいタウン

社会の仕組みを本当に学ぶというよりも、お店をやって、お金が動いて、こんなふうにお父さん、お母さんが稼いでいるのだよみたいな、そういうぐらいの認識でも、まだいいかなと思っています。

お店をやる以外に、別に市の運営を考える組の子がおり、自分は、お店をやらなくて、まちの仕組みを考える。銀行だったり、案内所だったり、休憩所をつくったりという。そういうところで社会の仕組みを学ばせるような感じにはしています。

150名が、一日まちで楽しく過ごすというか、働いたりするために、子供たちのお店だけでは、時間的にはもたないですね。それもあつて、前は消防署の方に来ていただいて、消防体験みたいなブースをつくって、そこもお手伝いできる子、そこで働いたりとかしてというのをしたので、どっちかという、警察署とか図書館とかいうのは、おまけのブースという感じで、本当は子供たちに警察署をつくってもらって、見回りに行くとか、落とし物を拾ったら、警察に届けるとか。その補助として、大人スタッフの補助として、いてくれたらいいかなという感じはしています。

○おもしろいタウン

子供たちは遊びで楽しいのだと思います。まず、これは遊びを通して、成功も失敗もしていい機会だと思っています。そんな中で、子供たちは自分のやりたいお店をわくわくして作るのですが、後のアンケートを見ると、一番忙しいピーク時には、バイトがいなくてきついか、子供も大人と同じ感想を出してくるのですね。なので、学ぶところは、すごく心の根っこで大いにあると思っています。

○委員長

ありがとうございます。やり過ぎるとキッズニアと変わらなくなってしまう。大人は子供の主体性を尊重しつつということですね。

時間が来てしまいました。どうもありがとうございました。

○事務局

それでは、3番目の団体さんの発表に移らせていただきます。

3番目の団体は、桜台剣友会さんで、発表者は●●さんです。申請事業名は「地域剣道を核とした『子供成長・地域交流プロジェクト』」でございます。

それでは、発表をお願いいたします。

○桜台剣友会

止戈為武、今から約2500年前、中国で春秋左氏伝に刻まれた言葉です。武という言葉は、戈（ほこ）と止まるから成り立ちます。紀元前4世紀、楚の荘王に問いました、武とは何かと。そして答えました。止戈を為すを武と為す。真の武とは、戈（ほこ）を止めることだということです。

武の七徳、禁暴、戦兵、保大、定功、安民、和衆、豊財。争いを制し、平和と調和を生む力。その精神は、今日ここで御提案する剣道の中に脈々と生き続けています。

剣道とは、竹刀を動かす前に、必ず礼をする日本古来の武道であります。いかに試合が激しくても、負けて悔しくても、礼をします。これは単なるマナーではありません。相手を人として尊重し、たとえ激しく争い合っても、その根底には敬意がある。それが止戈為武の精神です。そしてこれは、子供が毎朝、おはようございますと言うのと全く同じ心の動きです。

桜台剣友会がこのプロジェクトで子供たちに伝えたいのは、竹刀の振り方だけではありません。相手を大切に作る心、地域の中でともに生きる力、この2500年の哲学を白井市の子供たちに届けます。

改めまして、桜台剣友会の●●と申します。本日は審査の機会を頂き、誠にありがとうございます。私どもは、平成8年の設立から30年、白井市桜台地区で、ただひたすら地域の子供たちに向き合ってきた団体です。現在の会員は24名。市内19名、市外5名。活動拠点は、白井市立桜台中学校の尚武館です。白井市の大会では毎年入賞を果たし、成田剣道連盟会長杯でも個人優勝の実績を持っています。30年間、地域から離れることなく歩み続けた団体が、今、地域のために新しい挑戦をしようと思っております。

白井市の人口は、約6万人、子育て世帯と高齢者が共存する千葉ニュータウン型の住宅都市です。この地区では、近年、四つの課題が顕在化しております。

第1に、子供の運動機会の減少。放課後の外遊び、スポーツ習慣が急速に失われております。第2に、世代間の交流の希薄化。学校以外で異世代と関わる機会も、

ほぼゼロになっています。第3に、地域コミュニティの空洞化。住宅都市特有の隣人を知らない環境が広がっています。第4に、保護者の孤立と子育て支援の不足。親同士がつながる場所や機会が非常に少ない状況です。これらは桜台地区だけの問題ではなく、都市圏のベッドタウン全体に共通する構造的な課題です。これらの課題に関して、私たちは剣道という日本伝統文化を解決策として提案します。

子供の運動不足には、剣道体験と基本動作の習得で応えます。世代間の交流の断絶には、親子教室と地域イベントでございませぬ。保護者の孤立には、保護者コミュニティの自然な形成でございませぬ。日本文化継承の創出には、日本武道文化普及活動でございませぬ。四つの課題に、一つの伝統文化が同時に応えるということになります。

ここで1点、明確にお伝えしたいことがあります。本事業は、会員募集を目的とするものではありません。参加後の入会勧誘は一切行いません。体験会は1回参加で完結する設計です。参加費用はもちろん完全無料、竹刀も無料でお貸出しします。剣道着も不要です。運動服でそのまま御参加いただけます。これが本事業の公益性の核心となります。

事業は、3本柱で構成されています。実施期間は、2026年4月から2027年3月、全て参加費用、無料、完全無料です。

第1の柱は、子ども剣道大会、体験会、6月と8月に年2回開催します。対象は小学生未経験者。礼法、基本動作、ミニゲーム、面打ち体験を通じて、初心者でも楽しみながら剣道に触れられる内容です。保護者の方ももちろん一緒に参加可能です。

第2の柱は、親子剣道教室です。7月と10月に、年2回開催します。対象は小学生とその保護者。親子で本気になれる数少ない武道の機会です。親子の絆と家庭教育支援につながります。

第3の柱は、地域交流剣道イベント。12月に年1回、年間のクライマックスとして開催します。対象は地域住民全般。子供の試合、大人の交流稽古、武道着着装体験など、世代を超えて地域の交流イベントとして位置づけます。

告知方法について、五つのチャンネルで地域全体をカバーします。

第1に、チラシの配布。小学校、幼稚園、保育園へ入学時、学期初めに配布します。チラシは900枚を印刷し、推定1,800人に接触を見込んでいます。製作、印刷、配布は、事業担当の私が担当します。

第2に、地域掲示板、町内会回覧板。各会員が担当エリアを分担し、月1更新で継続発信します。

第3に、SNS発信。LINE公式アカウントとインスタグラムで活動報告、参加者募集を行います。運用は事業担当の私が、あと若手会員が担当します。月に50から100以上を見込んでいます。

第4に、地域イベントのブース出展。毎回10名以上の新規接触を目標とします。

第5に、学校通信、地域広報紙での掲載。これは当会の代表である小西が直接依頼します。効果測定は、参加者アンケートで何をきっかけに知ったか、設問で毎回継続し、次回の広報に反映させます。

次に、年間のロードマップです。4月の応募から始まり、6、7月に体験会、7月、10月に親子教室の実施、そして12月に地域交流イベントという年間スケジュールです。翌年2月、3月で報告書作成と次年度の準備を行います。補助終了後も、活動を継続できる体制を整えます。

こちら参加規模の設計の根拠に関してなのですが、成果指標について説明します。

年間50人以上、継続された参加者20名以上、保護者参加者30名以上、満足度80%以上を目標とします。この数値は、桜台地区の小学生人口に参加率5から8%を掛けたものとなります。チラシの配布の返信率は、3から5%の計算、SNS口コミ効果の合計です。初回は目標の70から80%達成でも十分な効果があると判断しており、万一、目標未達でも、開催は、団体自主財源で確保できます。

次に、継続参加の仕組みにつきましては、継続参加を促す仕組みを整えています。LINEオープンチャットで次回開催情報を発信し、スタンプカードで5回参加の子供に認定書を発行します。入会を求めることは一切ありません。保護者LINEグループで、親同士のつながりも自然に生まれる設計です。

次に、総事業費は8万141円になります。補助申請額は上限の7万円、団体が1万141円を自主負担とします。収支の中心は、参加児童向けの茶菓子3万6,980円と各種消耗品です。補助対象経費はゼロ。全て子供たちに直接還元です。

最後になりましたが、止戈為武、戈を止める、争いを越え、相手を尊重する。この2,500年の精神を胸に、桜台剣友会は、30年間、地域の子供たちに向き合ってきました。

本日、頂いた皆様からの御質問は、どれも白井市の未来に対するものと深く受けとめてまいります。地域の高齢化が進み…

○委員長

時間となりましたので、一旦、質問の中で内容についてお伺いしますので、取りあえず区切らせていただきます。

それでは、委員から質問させていただきます。皆さん、いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

資料を拝読させていただいて、私自身も非常に勉強になったのですが、収支予算計画書のところで、支出の項目の消耗品費について、今回取組をやろうとしている

もの内容。茶菓子とかゴムボールとか紙風船とかになっています。必要性はあるのですが、私も詳しくないので教えていただきたいのですが、実際に剣道の交流イベントだったり、地域連携のこういった取組をやっていく際に、もっとほかにもかかる経費があるのではないかというふうに思いますが、その辺はどうなのでしょう。今、ほかの必要経費についても自主的に負担してしまっていて、載っていないというケースがあるのではないかと推察したのですが、いかがでしょうか。

○桜台剣友会

御質問頂きましてありがとうございます。

おっしゃるとおり、もともとかかる経費というものがございます。当団体のほうで、まず場所ですね。レンタル料がかかっている桜台小学校の尚武館を借りておりますが、こちらとしては一応、経費がかかっているものの、基本的に我々の団体での行動というところになるので、自主経費の中で賄うことができるかと思っています。

もともと剣道というものをやろうとすると、いろいろ防具とか、竹刀とか、木刀とか、お金がかかることがあると思います。それは実際に剣道という日本伝統文化に、子供たちや大人たちでも、触れ合うというところで負担になるのが多々あるというのが正直なところです。

しかし、我々、平成8年から約30年間、ずっと活動してきている中で、今までの会員が寄附という形で、防具や胴着、袴、竹刀などを寄附してきているもので、我々の財産と言いますか、そういった部分での貸出できる部分で、たくさんそろえてありますので、そういった部分では全てカバーできるかなというところ。おっしゃるとおり、お菓子というところで、何でこんなにお金の部分の半分ぐらいかかってしまうのだという御指摘はあると思うのですが、子供たちが、まず剣道というものは、一見すると、怖いのです。思い切り叫び声を出したりとか、人をたたくというところがあったりとかするので、そういったところで、その部分を和らげるためには、まずは、この子供たちが接しやすいお菓子というところで、まず第1関門を突破できればというところもあって、日本伝統文化に触れ合っていたくというところでの接点として、こういった形を設けさせていただきました。

○●●委員

ありがとうございました。とはいえ、何か必要な経費があれば、この取組に特化したものを持っていただいて、いい制度になっているのでということで共有いたします。ありがとうございました。

○委員長

ほかにかがででしょうか。

●●委員。

○●●委員

桜台中学校が活動場所ということで載っております。今後これは、よその中学校、白井中とか、南山中とか、そういうところに広がっていくものなのか、それとも逆に、そういった地域から来てほしいと欲しているのか、そこが確認したいところです。よろしくお願いします。

○桜台剣友会

今メインの活動場所としては、白井市立桜台小学校の武道場という形になっていますが、ここにとどまらず、我々としても、幾つか候補がございまして、清水口小学校、あと池の上小学校など、体育館をお借りして、こういった場を設けさせていただければと思っております。

なので、基本的には、白井全体を活動場所として考えさせていただき、これがもっと発展してきましたら、今後、部活動の地域移行というところもありますので、そういったところでも発展して、小学生だけではなく、新しく剣道という文化に触れられる中学生、高校生や、そういった方々にも、こういった剣道という文化をやっていただく場を設けたいと思っております。

○委員長

ありがとうございます。

●●委員。

○●●委員

割と似た質問だったので、重複してしまうことがあるかもしれませんが、発表ありがとうございます。

発表資料の中に、地域全体に届けるということが書かれていて、地域全体で指している対象が、桜台なのか、白井全体なのか、そのお答えを聞いた上で、今後の展開というのを伺いたいなと思ったので、ほぼ似ている感じですが、もし追加で何かあればお願いします。

○桜台剣友会

私が白井市に来たのが、中学校2年生のとき引っ越してきました。もともといたところは、茨城県の取手市というところに住んでいたのですが、新しく千葉ニュータウンができたときに、第1世代なのか、第2世代なのか分からないのですが、引っ越してきました。大人になるまで、20歳になるまで桜台で、それから大人になって若干離れましたが、もう一度白井市に住むことになる、子供や家内や家族を築いて今まで来ているのですが、そういったところを見ると、すみません、僕が白井市の中で特化した地域が桜台地区だけだったので、今回発表のところは、桜台というだけに特化させていただいたという経緯になります。

先ほど申し上げましたとおり、基本的には、西白井、白井の全般的に白井の中で、剣道という文化をもっと花開き、日本文化をもっと皆さんに知ってもら

う機会をつくっていければなというところもありますので、今後そういったところで、もう少し発展的な活動ができればと思っております。

○委員長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員

感想になります。私、中学校の頃、剣道をやっていて、夏場は面をかぶっていて汗がダラダラと出て、本当に厳しいスポーツだというところ。あとは、今の時代に、礼に始まって礼に終わるとか、すごく大事な部分もたくさんあります。一方では、サッカーとか、野球とか、バスケとか、子供たちがパッと飛びつくようなスポーツがたくさんある中で、ぜひ剣道を広めていただいて、子供たちが取り組めるような取組を継続していただきたいなと思いました。ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。ほかは、いかがでしょうか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員

教育委員会とのつながり、例えば何か後押ししてもらったりとか、一緒に何かやっているとか、そういう連携の仕方はどうなっているのかというところと、この会が終わった後の備品ですね、保管とか結構大変なのではないかと思うのですが、今、どういうふうに毎月やられて、どういうふうに保管してこられているのか教えていただけますでしょうか。

○桜台剣友会

ありがとうございます。教育委員会はほぼつながりはなくて、我々がやっている変動的なところで言いますと、お力添えいただいているのは、中学校の校長先生や小学校の校長先生などにお話しさせていただいて、掲示物の配布とかというところでは、お力添えいただいたりとか、あと桜台センターさんとかにも、今お力添えをいただいているのですけれども、今日、実は有休を取って、この発表会に来ているのです。そういった意味で、サラリーマンなので、正直言って、平日のそういった活動というのが難しくて、そういった部分では、もう少し、できれば今後の活動につながるかなというところを考えています。

あと、備品の管理については、実は桜台小学校で、もともと1学年4組あったんですけれども、もう今2組に減ってしまっているのですね。そういった意味で、空き教室とか部室が結構残っている状況です。なので、そういったところをうまく活用して、今、備品とかは管理させていただいております。

○委員長

ありがとうございます。ちょうど時間も参りましたので、桜台剣友会さんの発表は以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○事務局

それでは、最後の団体さんとして、白井市文化センターを未来につなぐ会の●●さんと●●さんから発表いただきます。申請事業名は「国際文化でつながる平和の祈り カテリーナコンサート」です。

それでは、発表をお願いいたします。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

白井市文化センターを未来につなぐ会の代表の●●と申します。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

●●です。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

よろしくをお願いいたします。それでは、発表させていただきます。

当会は、文化センターの改修に当たり、今ある良い点を残し、さらに良いものになるようにと活動しています。工事で利用できなくなる前に、普段、利用しない方々にも足を運んでもらうという目的で、この文化センターを使ってイベントを企画しています。

これまで行ってきた事業ですが、まず謎解きですね。去年、一昨年、2年続けて、センター内巡るようにルートを作って、謎を解く、謎解きを小学生の親子向けに作りました。期間は夏休みということで、感想のほうでも、夏休みでちょうど良い企画でしたと感想を頂いております。また、またやってほしいという感想も頂いております。

昨年ですが、秋に0歳からの親子コンサートというのも行いました。声を出しても、動いても大丈夫というコンセプトで、御家族で楽しんでもらうことができました。また、このコンサートで初めてこのセンターに来ましたという感想も頂いております。

もともとのこのコンサート、できればプラネタリウムさんとのつながりのある感じでできたらいいなと思っていたところ、たまたまプラネタリウムを見た親御さんが、午後の部のコンサートにも参加していただきまして、つながりができてよかったなと思っております。

今年の事業につきましては、大ホールの響きの良さに焦点を当てた企画をしようというところで、カテリーナコンサートという企画になりました。

このようにして、当会は一貫して文化センターをいろんな方に使ってもらいたい、来てもらいたいというところでイベントを企画して行っております。

今回のカテリーナさんのコンサートについては、2024年度、文化団体協議会さんのイベントでゲスト出演したカテリーナさんの歌声とパンドウーラの楽器の音色が、大ホールの音響の良さを引き出すのに最適と思いました。

そのときは、感想としては、カテリーナさんが来るということを知らなかった。また聴きたい。カテリーナさんのお話も聞きたかったという声を聞いています。また、このとき予算立てなどの参考になりましたので、今回の企画に生かしたものとなっております。

今回は、前半にペルーのダンスの方も呼びしております。写真が、昨年コミュニティセンターでイベントに参加されたときの写真となっております。国際交流協会さんのイベントだったので、国際交流協会さんにアポを取らせていただきまして、このペルーの方々に出演を依頼させていただきました。

今は、何でもデジタル化の時代になっておりますが、生で見聞きすることは、五感を刺激し、感動を生みます。地元での体験は、地域への愛着となります。

当会は、そのとき、その会場で市民のニーズに合ったイベントを考え、その内容に得意な団体さんと協力して、工夫して、今後も継続活動をしていきたいと思っております。

このように、謎解き、0歳からの親子コンサート、そして今回のカテリーナコンサートは、立ち上げから3年、文化センターを舞台に、市民に知ってもらい、楽しんでもらうという継続してのイベントということで、改めてお伝えさせていただきたいと思っております。

今後ですが、カテリーナコンサートのような国際的なイベントということではなく、いろいろな方に来てもらうために、今後の企画としては、謎解きをまたできれば来年行いたいと思っておりますし、また、子供向けのコンサートなども行いたいなど考えています。

千葉県少年少女合唱団のコンサートが、白井市で行う予定があるということですので、そこで協力できることがあれば、してほしいとお声をかけていただいておりますので、そのような形で、いろいろな方と協力しながら活動ができればいいなと思っております。

予算面ですが、今回、大きな事業なので有料にしまして、多くの市民の方に楽しんでもらえるように、低価格にしました。大人は1,500円、高校生以下は無料です。会のメンバーで努力して、400席以上のチケットが売ることができれば、やっていけるとは考えていますが、事前に印刷代、会場費などがかかりますので、市の補助金を頂けたら、とても助かりますので、よろしく願いいたします。

事前に幾つか質問を頂いておりますので、答えていきたいと思っております。

まず、センターの魅力と国際交流とを相乗的に高めていくために、今回の取組がどのように今後、継続していくのか。施設改修後の活用として、どのような展開を

想定しているのかという質問ですが、これにつきましては、何度かお話しはしていますが、当会は、いろいろな方に来ていただく、あまり普段来ない方に来ていただくというのが一つと、ほかの市民団体と協力することで相乗効果を生むということ、この二つを考えて企画をしております。

今回は、国際色豊かにというテーマですので、国際交流協会さんに打診をさせていただきました。一つの団体に限らず、イベントに合わせて団体さんが得意とする分野で協力し合い、まちの活性化につなげたいと思っております。

また、コンサートの中で、協力団体さんを紹介したり、ブースを設置することで、市民と団体がつながる相乗効果はあるのではないかと考えております。

次に、アンケートについての御質問がございました。アンケートにつきましては、今までのイベントでも何回かしているのですが、施設の利用については、4施設ありますので、どれを使ったことがあるのか、ないのか。また、その理由を聞くことで、魅力の深堀りをしたり、企画の際にどういう工夫が欲しいのか、市民のニーズを知り、今後の情報発信や、よりよい改修がなるように働きかける活動、運営に生かしていきたいと思っております。

次に、本事業を継続していく上で、どのような発展の方向性を描いているのかということですが、今回の事業を行うことで、普段、足を運ばない人にも施設を知ってもらい、また、施設の企画などにも関心を持ってもらうことです。市民団体が協力してイベントを盛り上げたり、市民団体と市民をつなぐきっかけの場づくりが、その施設を生かしたまちの活性化の一つとして示せることを期待しております。

先ほど少しお話ししましたがけれども、実は0歳からのコンサートでは、子育てフェスのように飲食店ブースを設けて、コンサートに来た方が帰りに食べられるようにという流れを考え、現在、空いています喫茶スペースの利用を交渉したのですが、現在は、そのような利用はできないと断られたために、改修後は実現できたらいいなと思っております。

これが最後の質問ですね。今回の補助金審査とは直接関係ないが、一口に文化センターといっても、大・中ホール、図書館、プラネタリウム、郷土資料館と多岐にわたるが、団体として数年後にどうしていったらいいか、どうなっていくというビジョンを持っているのか聞きたいということです。まず、施設の良さを残していくために、より魅力的で市民が寄りやすい改修となることを私たちは求めています。文化会館、図書館、プラネタリウム、郷土資料館についても、具体的な案については、それぞれの思いや考えがありますので、今後もディスカッションを深めて、よりよい方法を提案していけるようにしたいと思っております。

最後、まとめとさせていただきます。文化センターは、市民の文化活動を支えており、また、未就学児から中学生までが課外活動として利用するなど、教育面での役割があります。改修着工まで、多くの市民に来ていただき、施設の良さや文化の

素晴らしさを共有する事業目的からすると、会場や対象者に合わせてイベントを企画することが重要と考えております。

私たちの発表は以上です。

○委員長

ありがとうございました。それでは、質問をさせていただきます。委員の方、いかがでしょうか。

●●委員、どうぞ。

○●●委員

このコンサートの中で、文化センターを未来に残すという、そういったお話が来場者の方にあるのでしょうか。ただコンサートを験してもらうだけではなくて、皆さんの活動を知ってもらうようなコメントをする場というものはあるのでしょうか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

お答えします。

まず、私たちの活動を知ってもらいたいということで、このイベントを企画していますので、もちろん会が立ち上がった頃から、つなげていきたいということを最初に挨拶のときにお話ししたいと思っております。

○●●委員

ありがとうございました。

○委員長

ほか、いかがでしょうか。

●●委員。

○●●委員

カテリーナさんを再度招聘ということで、その目的について教えていただきたいのですが、先ほど述べられていた大盛況で、また聴いてみたいとか、そういうことが理由にあるかと思うのですが、カテリーナさんと呼ぶに当たっての公演の人選とかについては、どのように考えられて、最終的にカテリーナさんに落ち着いたのか教えていただけますか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

まず、大ホールの音響の良さというものを一番知っていただきたいということで、会のメンバーのコーラスサークルとかということも考えましたけれども、やはりある程度プロの方の美しい歌声で聴いてもらいたいというのが、すごくありました。それで、カテリーナさんの声と歌と、皆さんの知っている幅広い歌も歌ってくださるので、クラシックでもなく、フォークとかそういうジャンルでもなくという内容でカテリーナさんを選びましたし、パンドウーラの楽器が、音響と相まって、すごく響きが良いということが分かりました。

それをたくさんの方に聴いてもらいたかったのですが、知らなかったという方の声が多かったのも、また、もっと聴きたかった、もう少しお話も聞きたかったという声も終わった後でありましたので、その辺を鑑みまして、あと、予算的なものもありましたので、文化団体協議会さんの予算も見せていただいて、やっていけるかなということで決めさせていただきました。

○●●委員

ありがとうございます。ウクライナ出身ということもありますので、またそこら辺も何か当日絡めて実施するのでしょうか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

やはりウクライナということで、皆さんの関心も、また持っていただけるかもしれないというのをいろいろ幅広く考えて、決めさせていただきました。

○●●委員

ありがとうございます。

○委員長

よろしいですか。ほか、いかがでしょうか。

●●委員。

○●●委員

文化センターの改修の関係ですが、今、いろいろ陳情を行っているということですね。令和10年に着工を目指して改修の準備が進んでいるということなのですが、問題意識としては、大ホールとか、ホール関係の音響とか、照明とか、映像とか、その他いろいろな機能の縮小だったり廃止というのが見込まれていて、今現状こういうホールが、こういう面でこんなに素晴らしいんだと、だから改修に関して、こういうふうにしていくといいのではないかという、何らかのそういったメッセージをつくっていくための、今回のイベントという位置づけなのではないでしょうか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

ありがとうございます。

まず、良さを知ってもらい、体感してもらいというのが一つと、使い方として、こういうことをすると、市民の方々も来ますよという例というか、前例というか、そういったものも含めまして、今、活動させてもらっている状態です。

もちろん大ホールの音響も素晴らしいのですが、プラネタリウムは、この近隣ではあまりないので、しょっちゅうあるような施設ではないので、市外からもかなりいらっしやっていますし、できるだけプラネタリウムはやっぱり生かしてほしいなという気持ちも今あるので、できるだけ市の子供たちが、そこを使って学んでいる環境をできるだけ潰したくないという気持ちも一つあります。

○●●委員

分かりました。そこに向かってに当たって、今回のカテリーナさんのコンサートというのが、市民に訴求するに当たって、非常に有効であるという、そういう位置づけなのですか。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

カテリーナさんのコンサートにしたというのは、一つは、カテリーナさん自身がメディアに出ていらっしゃったり、近隣でもコンサートをされていたりという背景があります。パンドゥーラという珍しい楽器が、響きがとても良くて、音響の良さも会館には、ぴったりかなというところですよ。

市民の方々でも、来る人、来ない人ってかなり色が分かれている施設ですので、できるだけ普段来ない方も来ていただきたいというところで、こういった形で企画をさせていただきました。

○●●委員

分かりました。

○委員長

よろしいですか。

●●委員。

○●●委員

お疲れさまでした。文化センターというのは、白井市の中の一つの財産ですので、これを残していかないといけないと私も思っています。ぜひ今回のようなカテリーナさんと呼んでやるということは、私も素晴らしいなと思っていましたので、こういう形で、ほかの有名な方でも結構なので、大いに文化センターを利用してもらおうよう企画していただくとうれしいなと思います。ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

私から確認させてください。カテリーナさんは、私は正直存じ上げませんが、調べてみると、ウクライナの避難民の方というイメージで考えていたのですが、そうではなくて、以前から日本にお住まいで、チェルノブイリの関係でこちらに来られて、コンサートとかもやられているみたいなことを拝見しました。なので、平和の祈りとタイトルに入れていただいているので、ウクライナ紛争のこととか、もちろん素晴らしい音楽をあのホールで聴くということも価値はあると思うのですが、平和と入れているわけなので、例えばウクライナ紛争のことを展示で、ああいうことが起きてしまっているとか、何か少し啓発的な要素を入れてはどうかと思いました。ウクライナは、ウクライナ紛争を早く停戦すべきという話がある一方で、ペルーはペルーで、別に今、何か紛争が起きているわけではないので、どちらかというところ、国際交流的な要素になるのかなと思いました。ペルーのことをみんなで知ろうよとか、こういう国だよとか。実は日本にも、たくさん鉱石とか、貿易があつて、

あるいは日本にもペルーの人がいっぱい住んでいてとか。単にコンサートというふうになってしまうと、もったいないなというふうに思いますので、そこを少し御留意いただきたいのが1点です。

もう一つが、お金に関わる話ですが、考えたくはないのですが、万が一、チケットが売れなかった場合でも、やらなくてはいけないではないですか、買ってきている人がいる以上。キャンセルはできないと思います。最悪、皆さんが37万5,000円、自腹を払うというリスクがあるのですよね。補助金を採択されたとしても、売れなかったら。でも、私たちが自腹で出しますという覚悟を最後に聞きたいです。もちろん皆さん、チケットを売っていただくのですけれども、最悪、あまり売れなくても、補助金を出す以上、やっていただく必要があるのです。そこは大丈夫ですよということを確認させていただきたいです。

○白井市文化センターを未来につなぐ会

そこは、努力して売ることが一番ですが、やはりそれは考えられることで、そこまで考えております。大丈夫です、やっていけます。覚悟をしております。

○委員長

ありがとうございます。千客万来であることを願っております。

それでは、お時間となりましたので、以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

以上をもちまして今回のプレゼンテーションは終了となります。

(3) 審査

○委員長

それでは、続いて審査となりますが、まず例年ですと、少し皆さんの中で、この4団体のプレゼンを聞いていただいて、簡単に意見交換というのをに入れていて、10分ばかり時間を取っているのですが、1人ずつ聞いていくのもあれなので、団体ごとに、何か特記すべきコメントとか、時間がなくて、空気を読んで手を挙げなかったけれども、何か言いたいこととか感想がございましたら、言っていただければと思います。

まず、白井写真部さんについて、何かコメントとか御意見とかあればお願いします。あるいは特記事項として、今、書いていただいている審査用紙に欄があるのですけれども、いかんせん手書きで書くという大変だと思うので、これは議事録で起こしていただいているので、言っておきたいこととかは今、言ってください。

どうぞ。

○●●委員

ふるさとまつりでの事業なので、それについては、とてもよく分かったのですが、それ以外についての団体としての活動が、少し上滑りしていて、見えてこなかったもので、そこが少し残念に感じました。

以上です。

○委員長

多分、できたばかりの団体さんなので、今のところ、ほかの活動があまりないのではないかという気がします。

ほか、いかがですか。よろしいですか。

では、おもしろいタウンさんについて、何かありますか。

●●委員。

○●●委員

審査会のときに質問をした中に、教育委員会関係の連携のことを触れまして、その際に、はたと気づいたのですが、これはむしろ市の事務局の方への質問だったなと思いました。

実際、今日のプレゼンテーションを見ると、学校を舞台にしてやっていますし、教育セクションとの連携することで他にも広く展開していくというような道筋を描くことができれば、すごくスムーズに行くのではないかなというような事例だと思いました。ただ、実際にお聞きすると、教育委員会との連携は、まだそんなに取れていないとか、市の教育職員とのタイアップという部分も、あまり意識していないようだったのですね。

今後、進めていく際に、ぜひ今後の計画を考えるのであれば、市の教育職員、学校指導主事の先生とか、社会教育士の先生と、最初から実施体制の中に入っているといいのではないかなというふうに思いましたが、その辺のつなぎというのは、結構難しいというか、ハードルがあるのでしょうか。

○事務局

内容としてですが、後援をしていますから、全く関係がないわけではないです。当然、市に話かけをされていて、やっているということです。

あと、これについては、そもそもその部分を意識していないと思うので、ちゃんとドアをたたいて、そういうものがあること、また、似たような同種の取組を市で今年度予定しておりまして、それと取組が重複しているので、そこは今の段階では、うまくちゃんと共有できていないのかなという気がします。

市がやる場合であれば、同種の取組を一緒にやるのかというと、少し難しいので、そのあたりは、今後、採択されれば、調整というのはあるかもしれないですが、団体さんについても考えがあると思いますから、今後の話かなと思っています。

以上です。

○●●委員

ありがとうございました。前にも、たしか市の取組と団体独自の取組というのがあることで一種の競合関係があるかのように見えてしまうということが、この教育

関係は、結構よく起こりがちなのかなという印象があります。子供にとってみれば、あっちもこっちも、両方参加できるので良いという感じもしますので、悪いというわけではないのですが、そのような印象を受けたことがあったのですね。ぜひ、採択後の話になりますけれども、実行体制の中に、市の教育職員が入って、一緒に相互交流というか、相互情報交換しながら進めていけるような、連携の必要な取組なので、というふうには思っていたところでした。

○事務局

団体の意向があればと考えています。意向がないのに、一緒に入るというのは、また少し違うと思いますので。そこは、意向があれば一緒にやるということは、市としては、やっていったほうがいいかなと思っています。

○●●委員

そうですね。その意向を醸成するように今日、私はかなり意見した形ですね。

○委員長

民間でやる良さもあるのです。あまり教育委員会が絡み過ぎちゃうと、それはそれで、いろいろな多分タイプがあると思います。市民発で団体さんがやっているというのは、それはそれでよし。何なら事業にするというのも一つのやり方なので。そこは、市民活動なので、自発性を尊重すべきで、あまりこちらが指図する話ではないとは思いました。

ほか、いかがですか。よろしいですかね。

次に、桜台剣友会さんについてはいかがですか。

どうぞ。

○●●委員

少し思ったのですが、皆さんに教えてあげる場所をまず増やしていこうというのですけれども、実際にやりたいなというときに、実際はそこに行けないということが起きるのではと思いました。ただ広めるだけでは、自分たちが、やりたい子供たちがどうしたらいいのか悩んでしまう。その辺を知りたかったなと思いました。

○委員長

私も基礎情報として、例えば、今、お話にも出ていましたが、部活動の地域移行、地域展開という中で、桜台中には剣道部はまだあるのですか。今は大体統合されてしまって、そもそもないのです。剣道というものに触れる機会とか、巷で言われているのは、写真部もそうだと思いますが、例えば吹奏楽部とかは、お金がかかるから、どんどんなくなって行って、部活動の地域展開で、もはや絶滅するのではないかというくらい危機感を持って、連盟さんとかが動いていらっしゃるのです。体験格差という言葉は、今回あまり出なかったですが、体験格差とか、子供たちの成長の、これまで私たちが当たり前を受けてきたことが、諸事情でできなくなってきている。部活動を選べるという時代だったのが、もう選べないというか、剣道を

やりたくても、やる場がないというのは、確かにあると思うのですよね。そこは、何度もおっしゃっていましたが、体験入部というか、1回体験してみて、俺、剣道好きかもとか、なるほど、礼って大事なんだなど、知る機会としては、すごくライトな感じでいいのではないかと思いました。

○●●委員

市民活動支援課とサポートセンターとの在り方について、委員長がおっしゃられたとおり、僕はメニューとしては見れたほうがいいのかと思います。こういうふうにやれば、こういう実績上げましたよという、こういう団体が支援を続けてきた結果という中が、こういうふうに支援を受けながら活躍した、発展した、促進したというのがあるかなと思います。生涯学習の担当課になるのでしょうかね。そういうところが案内してあげるといようなシステムをつくっていただくと、いいかなと思いました。

○委員長

多分、市でも検討されていると思いますが、国の予算とかも、例えば、おもしろいタウンさんだったら、若者参画とか、子供の参画とかであるし、桜台剣友会さんだったら、先ほど出てきた地域部活動移行だとか、いろいろ、これまで常連さんだったステップさんとかもありましたし、白井市さんは結構、我々が言ったことも真面目にというか、受け止めていただいて、事業を実施していただいていますので、期待しております。

桜台剣友会さんについてはよろしいでしょうか。お菓子代は要検討かなとも思いましたが、一応、ロジックがあつてのお菓子代なので、怖いイメージを払しょくしたということではよろしいでしょうか。

では、白井市文化センターを未来につなぐ会さんは、どうでしょうか。

○●●委員

私も、2年前の謎解きは参加してみて、面白かったなというイメージはあったのですが、今回の事業については、ホールの特性、音響の効果だとか、ホール特性は確かにあるのだと思いますが、それを引き出せるタイプのイベントというのは、割と特化してあるのかもしれないというふうに、今日お話聞いていて思ったのです。

例えば、ホールによっては、想定よりも大きな音が出てしまうような吹奏楽とか、バンド的なものにはそぐわないけれども、今日みたいなカテリーナさんの音楽は、恐らくもう少し静かなタッチなのだと思うのですが、それだと非常にその効果を引き出せる、そういう音響効果があるホールなのだとか、様々あると思うのです。そのようなものを行っている中で、我が市にあるホールだったり施設のそういう専門的というか、音響的なところを含めたそういった良さに気づく、再発見する機会になるのかもしれないと思ったのです。

プラネタリウムにしても、今回はそれが実現したようですが、そこでの何か音楽的なものと視覚的なものを合わせた何か催しをすると、非常に素晴らしい催し物になるとか、そういうのがもしかすると、こういう取組の中で再発見されるかもしれないと、気づかなかった良さに気づく機会にはなるのかなと思って、非常に考えさせられました。

実際、今、令和10年の着工に向けて、様々な準備がされているようですが、予算のかかる話なので、この団体と市とのやり取りとか雰囲気というのは、今はいい感じなのでしょうか。

○委員長

何か答えられますか。

○●●委員

これを進めていけばいいんじゃないかなと思いつつも、結構お金もかかる話ですから。

○事務局

前半の部分だけお答えさせていただきますと、プラネタリウムについては、例えば、市が担当して多く実施しているところがあります。マタニティコンサートであったり、あの日には何が起こったみたいな講座に、江戸時代の歴史的事件のあった日の星空を見せながら、その話をしたりとか、音楽などを使ったりするときもありますし、図を使ってやったりもする、かなり工夫はしているところです。

白井市文化センターを未来につなぐ会さんの取組については、正直、それぞれの考えがあると思いますので、今日の質問のところにもありましたが、多分、今日のお話だけを聞くと、いいところをそのまま残してやりたいなという話なので、その部分について、どうこうしてほしいという部分ではないのかなというふうには思っています。以上です。

○●●委員

であれば、私も先ほど申し上げたような方向でよろしいのではないかなと思っています。新しいこういう取組、市民活動の中で、市の既存の施設だったり、財産の予算が見えてくる、再発見されるというところも、この取組の醍醐味なのかもしれないということで共有しておきます。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございます。ほか、いかがですか。

どうぞ。

○●●委員

この団体さんについては、謎解きとかやられていたと思いますが、今回コンサートだったことによって、コンサートは文化センターなら、年間通じて随分な回数が

行われていて、私は独自性がなくなったのではないかなという見方をしていました。

謎解きのほうが、そんなことやっているんだと興味を持つ人は、持ったかなと思いました。そんな感じで、コンサートになったことがよかったのかどうかという、私の中では、えっ、という感じは受けました。

以上です。

○委員長

私も若干そんな感じで、人数多くなっちゃうと、大きくなっちゃうので、50万くらいの規模になってしまうと、万が一、このチケットが売れなかった場合、相当の自己負担をしていただくことになっちゃうのと、あと、今からそんなことを考えたくはないですが、例えば大雪が降ってしまうとか、全力で頑張ったけれども、こちらではどうしようもなかった場合、あまり市民団体で、そんなに自ら大きなリスクを背負っていただきたくないなという気持ちもあったので、おっしゃったとおり、もう少し別のやり方があるのではないかなという気はしました。そこは覚悟があるとおっしゃっていたので、そこは頑張っていたきたいと思います。自らイベントをつくってくださるというのは、非常にありがたいことではあります。

ほか、いかがですか。

○●●委員

謎解きときには、たしか数万程度でしたよね。

○委員長

どうですか。よろしいですか。

そうしましたら、意見交換は以上とさせていただきますして、もう皆さん書き上がっていると思いますが、審査用紙に書いていただきましたかね。そうしましたら、それを事務局の皆さんにお渡しして、一旦休憩とさせていただきますと思います。何分まで取ればいいですか。

○事務局

10分程度でお願いします。

○委員長

では、4時再開でよろしいですか。4時再開ということで休憩してください。

(休憩)

○委員長

では、再開したいと思います。

それでは、先ほどお配りいただきました、採点結果の報告を事務局からお願いします。

○事務局

結果について御報告させていただきます。お配りした資料を御覧ください。

白井写真部については、合計平均点数が23.4点となり、得点率が78.1%。こちらは採択基準点の15点を超過しております。

続いて、おもしろいタウンについて、合計平均点数が24.1点、得点率は80.5%となり、こちらも採択基準点を超過しております。

桜台剣友会につきまして、合計平均点数が21.1点、得点率が70.5%となっており、こちらも採択基準点の15点を超過しております。

続いて、活動発展型についてです。

白井市文化センターを未来につなぐ会につきましては、合計平均点数が26.7点、得点率が66.8%と、採択基準点の24点を超過しております。

以上が事務局からの報告になります。

○委員長

ありがとうございました。そういう結果になりましたので、結論としては、全団体採択基準点を満たしているということになりました。

では、4団体を採択としたいと思えますけれども、よろしいでしょうか。

では、続きまして、先ほども大分言っていたいただきましたが、何かこの結果を踏まえて、特に各団体のコメントをしたいという方はいらっしゃいますか。

○●●委員

1点だけよろしいですか。久々なので、もしかしたら、これまでの会議の中でも話が出ているかもしれませんが、改めてこの数字を見ると、自発性のポイントはやはり高いのです。例年もそうだったと思うのですが、自立性のところが、どうしても低くなりがちですよね。これは審査もそうだし、ほかの委員会の場面でもそうだったと思うのですが、やはり継続性だったり、自立して運営していくという部分の課題が、なかなか解消できないところなのかなというような印象があるので、この辺、私も改めて踏まえて、今後各団体が申請内容のそれぞれの持ち味を生かして自立・継続して活動が展開できるような提案などの検討を進めたいなというふうに思った次第です。

以上です。

○委員長

ありがとうございます。重要な御指摘だと思いつつ、団体側の立場に立つと、要は本当に自立していたら、補助金は要らないわけではないですか。財源がほかに確保できていて、本当に財源的な自立をしていたら、補助金にわざわざ出さなくても、内部留保とか自主事業の収益で運用ということで足りるわけです。確かに方法としては、ほかの助成金とかでも入っているのですが、果たして活動促進型で自立性と言われたときに、できたばかりのひよっこ赤ちゃん団体に自立と言われても、酷と言えは酷な話だなと思います。ある意味、姿勢を問うといえますか、実態として

自立できているかというよりは、自立していこうという気持ちがあるかみたいな、そういう項目にならざるを得ないのかなとは思いますが。

では、もし何かあれば、また事務局にお送りいただければ、採点コメント等に反映させていただきますので、よろしくお願いいたします。

資料には書いていないのですが、特記事項などを含めて団体さんに採択コメントを送ります。細かな修正につきましては、皆さんに一旦案を送って、その案に対して、何かコメントを返していただいて、最終的な責任については、私がやらせていただくということによろしいですかね。

ということで、コメントについては、御一任いただくということで、よろしくお願いいたします。

それでは、次の議題、最後の議題ですかね。今後の開催予定について、事務局からよろしくお願いいたします。

○事務局

今後の開催予定について、事務局から説明させていただきます。

昨年度の第5回市民活動推進委員会の中で、皆様の日程調整をさせていただいて決めているところではあるのですが、第2回市民活動推進委員会を6月16日に開催したいと思っております。お時間が、午前10時から予定しております。

取り扱う内容としましては、昨年度、この補助金を取られた団体さんからの1年間の成果報告をしていただくことを主に考えております。

今後の予定については以上となります。

○委員長

ありがとうございました。

この審査については、先ほど言ったとおり、コメントの案がこの後、皆さんに送られるということですよ。それについて、もし何かあれば、お返しいただいて、最終的に私と事務局で修正しまして、団体さんにお返しするという流れになるということによろしいですかね。

○事務局

そのようにさせていただければと思います。

○委員長

そうしましたら、以上をもちまして本日の審査会は終わらせていただきます。どうもお疲れさまでした。